

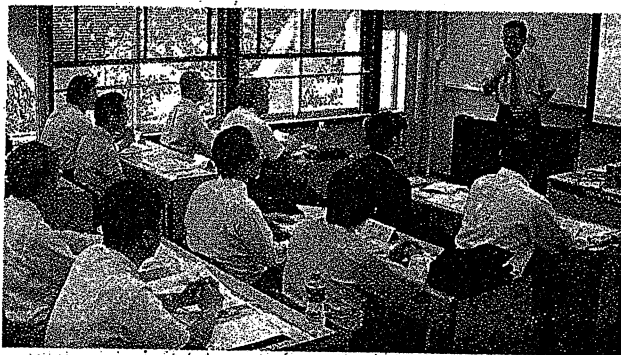
名工大が「工場長養成塾」

トヨタグループ協力で開講

技術にも経営にも強い中堅・中小製造業の工場長を育成しようとして、名古屋工業大学が開設した第1回「工場長養成塾」の入塾式が21日、名古屋市昭和区の同大学で開かれた。一期生24人はさっそく22日から、名工大や協力企業の豊田自動織機などで

の授業に出席し、東海地方の製造業を担う新タイプの工場長を目指す。同大学の松井信行学長は、入塾式で「この講座が世界の製造業発展の礎でありたい」とあいさつ。塾長を務める同大大学院の仁科健教授は、「受講生の目の色が変わり、リーダーシップを発揮できれば、製造現場は大

きく変わる。そのためのサポートに全力をあげる」と開講を宣言した。また、推進プロジェクトリーダーを務める豊田自動織機の磯谷智生顧問は、「製造現場に必要なことは『見える化』『標準化』『スピード化』。これを理解してほしい」と受講生を励ま



した。養成塾は、経済産業省の補助事業「産学連携製造中核人材事業」を母体とする。自動車や航空部品などの製造業が集積し、日本のモノづくりを担う東海地方で、製造現場の中核的な人材を育成しようとする中部経済産業局が呼びかけ、名工大と民間2社（豊田自動織機、デンソー技術センター）との産学官連携で力

リキユラム開発に取り組んだ。今春までの実証講座を経て、本格的な開講に踏み切った。

期間は来年3月までの延べ23日間（146時間）で、受講料は50万円。トヨタグループの工場長経験者が講師を務める。愛知、岐阜、三重3県にある自動車部品関連やオフィス家具、印刷業などの20代から50代の技術者24人（社）が参加した。

受講生は開講後、同大でマーケティングなどの技術経営に関する「ゼミ」に参加することも。また、デンソー技術センターの模擬ラインを活用した実習や製造現場数カ所の教室に通う。

「地域で製造業を担う継続的、組織的な人材育成が必要だ。自ら問題を発見し、考え、行動する人材を養ってほしい」と地元産業界は期待している。

「工場長養成塾」の入塾式であり、さつする名工大の松井信行学長（右奥） 21日、名古屋市昭和区